

童謡・童話の中の擬音語・擬態語で用いる五感認知分析



<https://doi.org/10.5281/zenodo.8094070>

ラヒモワ・ディヨラホン RAKHIMOVA (Sobirova) Diyorakhon

タシケント国立東洋学大学 日本学部 教師

Тема данной исследовательской работы «Когнитивный анализ пятислов, используемых в звукоподражаниях и миметических словах в детских песнях и сказках», в рамках которой рассматривается степень использования и количество используемых ономапоэтических слов в японских детских песнях и сказках. В своем исследовании я буду исследовать, к какому из пяти чувств относятся 256 звукоподражаний и миметических слов, содержащихся в детских стишках и сказках. Пять чувств – это зрение, слух, осязание, вкус и обоняние. Другими словами, он делится на 5 типов.

Чтобы разделить их на пять типов, мы используем Японский звукоподражательный словарь 4500 японских звукоподражаний под редакцией Масахиро Оно, находим значение каждого из 256 слов и анализируем их с помощью пяти чувств.

Ключевые слова: ономапоэтические слова, детские сказки, «пять чувств», познание

ABSTRACT

The topic of this research work is «Cognitive analysis of five senses used in onomatopoeia and mimetic words in children's songs and fairy tales», which examines the degree of use and the number of used onomatopoeic words in Japanese children's songs and fairy tales. In my research so far, I will investigate which of the five senses the 256 onomatopoeias and mimetic words taken up in nursery rhymes and fairy tales apply to. The five senses are sight, hearing, touch, taste and smell. In other words, it is divided into 5 types. To divide them into five types, we use Japanese Onomatopoeia/Mimetic Words 4500 Japanese Onomatopoeia Dictionary edited by Masahiro Ono, find the meaning of each of the 256 words, and analyze them with the five senses.

Key words: onomatopoeic words, fairy tales, Japanese language, application, “five senses”, cognition

1. はじめに

¹古くアリストテレスの時代から、外界のいろいろな刺激によって生ずる感覚として視覚、聴覚、味覚、嗅（きゆう）覚、触覚の五つが区別されてきた。これを五感という。この五つの感覚は今日でいう感覚の種に相当するものであるが、感覚の種はこの五つに限られたものではなく、とくに触覚で代表されている皮膚感覚は、触・圧覚、温覚、冷覚、振動感覚などが区別されており、そのほか位置および運動感覚、平衡感覚などが感覚の種とみなされている。目・耳・舌・鼻・皮膚を通して生じる五つの感覚。視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚。また、人間の感覚の総称としてもいう。

五感（ごかん）とは、動物やヒトが外界を感知するための多種類の感覚機能のうち、古来の分類による5種類、すなわち視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚をさす。この伝統的な分類を前提として、人間の感覚全体を指すために「五感」という表現が用いられる場合もある（「五感を鋭くする」など）

2. 研究方法

まず、これまでの研究で、童謡・童話の中で取り上げた256個の擬音語・擬態語が五感のどれに当てはまるのかを詮索する。五感は、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚である。即ち、5種類で分けるとする。

¹ <https://kotobank.jp/word/>

五種類に分け方は、²日本語擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典小野正弘編を使用し、256 個一つ一つの意味を探し出し、五感に分析する。

3. 童謡・童話に用いられている擬音語・擬態語の意味区分

以下の表は 242 個のオノマトペ辞典の本から一つ一つ調べ上げた意味である。
(242 個中 70 個を以下に書く。)

No.	擬音語・ 擬態語名	擬音語・擬態語辞典での意味
1	もにゃもにゃ	口の中で小さく何かよく聞き取れないことをつぶやき続けるさま。(擬態語)
2	ぐるっ	比較的重い動き、大きな回転を表す。(擬態語)
3	てくてく	わき目もふらず同じ調子でひたすら歩き続けるさま。(擬態語)
4	ばしゃばしゃ	物が当たって水が飛び散る様子や、水面をたたくようす。およびその際に発する音の様子。(擬態語・擬音語)
5	そうっと	注意深く動いたり扱ったりするさま。(擬態語)
6	たんたん	ものを軽く連続して打つ音。また、そのさま。(擬音語・擬態語)
7	ポッタン	辞典にはない。
8	ぽつぽつ	① 同類のものが散らばってあるさま。 ② 雨などが小さな粒で降り始めるさま。 ③ 物事がゆるやかに、少しずつ行われるさま。 ④ ものをいくつにも切る音。また、そのさま。 ⑤ 散在する斑点。 ⑥ 同じであること。 (擬音語・擬態語)
9	リンリンリン	① 何度も金属が互いに触れ合う音。鈴やベルなどのなる音。

² 小野正弘：“擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典”，小学館，2007

		<p>② 湯が沸騰して蓋や鉄瓶などが続けざまに鳴る音。</p> <p>③ スズムシやマツムシなどの鳴く声。</p> <p>④ ものの音や人の声などが、よく通って鋭くひびくさま。</p> <p>⑤ ひんやり (擬音語・擬態語)</p>
10	ぴよんぴよん	繰り返し身軽に飛び上がったり、飛び越えたりするさま。(擬態語)
11	よちよち	幼児、老人、重いものを背負った人などが、小さな歩幅でたどたどしく歩くさま。
12	コロコロ	<p>① 小さな丸い物が、ある程度のスピードを保って転がり続けるようすや音を表したり、女性が軽やかに笑うようす、数ある物がまとまらずに点在しているようすなどを表す。</p> <p>② 次々ととても簡単に物事が行われるようす。 (擬音語・擬態語)</p>
13	ドンドン	<p>① 連続する大きくひびく音。大砲・花火を発射する音。戸を強くたたく音。床を荒々しく踏み鳴らす音。また、そのさま。(音・さま)</p> <p>② 水がはげしく流れてぶつかる音。また、そのさま。 (音・さま)</p> <p>③ ものごとが勢いよくとどまることなく進むさま。ためらわないで事が進めるさま。(さま)</p>
14	があがあ	<p>① アヒルやカラスなどの鳴く声。スピーカーなどの機械が出す重くにごった雑音。</p> <p>② 騒がしく音や声をたてるさま。 (音・声／さま)</p>
15	すいすい	<p>① 気持ちよく軽やかに、滞り(とどこおり)なく進んでゆくさま。</p> <p>② 細い枝などが何本ものびのびと出ているさま。 (さま)</p>

16	ぴちぴち	<p>① 水が続けて跳ねたり、水泡がはじける音。また、そのさま。(音・さま)</p> <p>② 魚が勢いよく跳ねる音。また、そのさま。(音・さま)</p> <p>③ 若々しく健康で元気のよいさま。(さま)</p> <p>④ 衣服のサイズがやっと入るか入らないかのさま。(さま)</p> <p>⑤ ものごとが、はかったようにうまく合い続けるさま。(さま)</p>
17	ちよろちよろ	<p>① 少量の液体の流れる音。また、そのさま。(音・さま)</p> <p>② 小さなものが動き回るさま。うろちよろ。(さま)</p> <p>③ 小さな炎のわずかにあがっているさま。ちろちろ。(さま)</p> <p>④ こきざみにゆれたり、動いたりするさま。ちらちら。(さま)</p> <p>⑤ 軽い気持ちで事を行うさま。間に合わせに。(さま)</p>
18	チャチャチャ	<p>① 小鳥などの賑やかに鳴く声。多弁なさま。(声・さま)</p> <p>② 間に合わせにするさまや、いい加減にするさま。めちゃくちゃ。(さま)</p>
19	シャランラン	<p>布などの薄く軽いものが、やわらかくこすれ合ってる音やそのようす。(さま)</p>
20	ぱっくん	<p>口を大きく開けていっぺんに食べたり、飲みこんだりするさま。(さま)</p>
21	どっしん	なし
22	わっはは	<p>明るく豪快に大声をたてて笑う声。また、そのさま。(声・さま)</p>
23	トントントン	<p>① 続けざまに軽くたたく音。床や階段を軽く調子よく足早に踏む音。まな板の上で軽く調子よくものを刻む音。針を</p>

		<p>軽く打つ音。また、そのさま。（音・さま）</p> <p>② 物事が軽快に続けざまに進行するさま。ものごとが順調にはかどるさま。（さま）</p> <p>③ 二つのものの差がほとんどなく、ちょうど同じぐらいであるさま。五分五分。 （さま）</p>
24	ジャブジャブ ジャブ	<p>① 勢いよく水をかき回したり、すすいだり、また、水中を力を入れて歩いたりするときの音。また、そのさま。（音・さま）</p> <p>② たくさんのものを勢いよく流しかけるさま。（さま）</p> <p>③ 口の中で唱えものなどをするさま。（さま）</p>
25	ペラペラ	<p>① 軽薄な調子でよくしゃべるさま。（さま）</p> <p>② 外国語などをよどみなく話すさま。（さま）</p> <p>③ 紙や布などの薄くて弱いさま。（さま）</p> <p>④ 薄いものがこきざみにゆれたり、ひるがえったりするさま。（さま）</p>
26	ポンポン	<p>① 続けざまに打ったり破裂する高い音。また、軽くたたくさま。（音・さま）</p> <p>② 次から次に出てくるさま。矢継ぎ早に、あるいは無造作に行われるさま。（さま）</p> <p>③ 身軽に跳ね回ったり飛び回ったりするさま。（さま）</p> <p>④ 破れそうになるほどふくれているさま。腹がいっぱいでふくれているさま。（さま）</p> <p>⑤ 腹をいう幼児語。（名）</p>
27	チュチュチュ	<p>① スズメなどの続けざまに短く鳴く声。（声）</p> <p>② 酒や汗などをすすする音やキスする音。ちゅっちゅっ。 （音）</p>
28	ニャンニャン	<p>① 猫の鳴く声。（声）</p>

		② 食べ物をかみ砕くさま。かんでやわらかくするさま。 (さま) 方言 (大阪弁・長崎県)
29	ワンワン	① 犬の吠える声。また、犬をいう幼児語。 (声・名) ② 人があたりを気にせず大きな声をあげて泣くときの声。 また、そのさま。(声・さま) ③ 騒がしい音や声。また、声や音がうるさく反響するさま。(音・声・さま)
30	ごろごろ	① 大きく重いものが転がるようすや音を表したり、雷の音、猫がのどを鳴らす声なども表す。 ② ものがあちこちに散らばって、そこそこにあるようすや、人が何もせずに無為に過ごしているようすなどを表す。 (音、声、さま)
31	ぽっくりこ	① ものがあっけなく折れるさま。元気だった人が突然死ぬさま。 ② 突然消え失せたり現れ出たりするさま。 ③ 一度軽くうなずいたり、礼をしたりするさま。 ④ やわらかくふくらんでいるさま。(全さま)
32	パッカパッカ	馬の軽やかに歩むひづめの音。(音)
33	ざんぶりこ	水や波が大きく打ちつけるときの音。また、そのさま。(音・さま)
34	ちゃぷちゃぷ	軽く波立ったり、波がものにぶつかったり、水の軽くはねる際の小さく明るい音。また、そのさま。(音・さま)
35	トントン	① 続けざまに軽くたたく音。床や階段を軽く調子よく足早に踏む音。まな板の上で軽く調子よくものをきざむ音。釘を軽く打つ音。また、そのさま。(音・さま) ② ものごとが軽快に続けざまに進行するさま。ものごとが順調にはかどるさま。(さま)

		③ 二つのものの差がほとんどなく、ちょうど同じぐらいであるさま。五分五分。(さま)
36	ジャブジャブ ジャブ	① 勢いよく水をかき回したり、すすいだり、また、水中を力を入れて歩いたりするときの音。また、そのさま。(音・さま) ② たくさんのものを勢いよく流しかけるさま。(さま) ③ 口の中で唱えものなどをするさま。(さま)
37	ペラペラ	① 軽薄な調子でよくしゃべるさま。(さま) ② 外国語などをよどみなく話すさま。(さま) ③ 紙や布などの薄くて弱いさま。(さま) ④ 薄いものがこきざみにゆれたり、ひるがえったりするさま。(さま)
38	ポンポン	① 続けざまに打ったり破裂する高い音。また、軽くたたくさま。(音・さま) ② 次から次に出てくるさま。矢継ぎ早に、あるいは無造作に行われるさま。(さま) ③ 身軽に跳ね回ったり飛び回ったりするさま。(さま) ④ 破れそうになるほどふくれているさま。腹がいっぱいでふくれているさま。(さま) ⑤ 腹をいう幼児語。(名)
39	チュチュチュ	① スズメなどの続けざまに短く鳴く声。(声) ② 酒や汗などをすする音やキスする音。ちゅっちゅ。(音)
40	ニャンニャン	① 猫の鳴く声。(声) ② 食べ物をかみ砕くさま。かんでやわらかくするさま。(さま) 方言 (大阪弁・長崎県)
41	ワンワン	① 犬の吠える声。また、犬をいう幼児語。(声・名)

		<p>② 人があたりを気にせず大きな声をあげて泣くときの声。また、そのさま。(声・さま)</p> <p>③ 騒がしい音や声。また、声や音がうるさく反響するさま。(音・声・さま)</p>
42	ごろごろ	<p>① 大きく重いものが転がるようすや音を表したり、雷の音、猫がのどを鳴らす声なども表す。</p> <p>② ものがあちこちに散らばって、そこそこにあるようすや、人が何もせずに無為に過ごしているようすなどを表す。(音、声、さま)</p>
43	ぽっくりこ	<p>① ものがあっけなく折れるさま。元気だった人が突然死ぬさま。</p> <p>② 突然消え失せたり現れ出たりするさま。</p> <p>③ 一度軽くうなずいたり、礼をしたりするさま。</p> <p>④ やわらかくふくらんでいるさま。(全さま)</p>
44	パッカパッカ	馬の軽やかに歩むひづめの音。(音)
45	ざんぶりこ	水や波が大きく打ちつけるときの音。また、そのさま。(音・さま)
46	ちゃぷちゃぷ	軽く波立ったり、波がものにぶつかったり、水の軽くはねる際の小さく明るい音。また、そのさま。(音・さま)
47	トントン	<p>① 続けざまに軽くたたく音。床や階段を軽く調子よく足早に踏む音。まな板の上で軽く調子よくものをきざむ音。釘を軽く打つ音。また、そのさま。(音・さま)</p> <p>② ものごとが軽快に続けざまに進行するさま。ものごとが順調にはかどるさま。(さま)</p> <p>③ 二つのものの差がほとんどなく、ちょうど同じぐらいであるさま。五分五分。(さま)</p>
48	ギュッギュ	① ものが強くきしんだり、すれたりするときの重くにぶい

		音。(音) ② 何度も強く力を込めるさま。(さま)
49	ちんちん	① 湯の沸騰する音。また、そのさま。(音・さま) ② 金属やかたいものがふれ合って発し続けるかん高い音。また、そのさま。(音・さま) ③ 湧をかみ続ける際の高く鋭い音。また、そのさま。(音・さま) ④ 琵琶や三味線などの弦をはじく音。(音) ⑤ 激怒するさま。かんかん。(さま・方言) ⑥ 少しずつ変わるさま。(さま・方言)
50	ドーン	① 大砲・鉄砲などの弾丸を発射する音。(音) ② 人やものが勢いよくぶつかる際の大きくひびく音。また、そのさま。(音・さま) ③ 勢いよく盛大にものごとを行うさま。重々しく場所を占めるさま。でーん。(さま)
51	トン	① はずみをつけて軽く突き当たったり、たたいたり、倒れたりするときの音。また、そのさま。(音・さま) ② モールス符号の音。(音)
52	がったん	① 重くてかたいものが動くときに、ぶつかったりはずれたりしてたてる重くにぶい音。(音) ② 重いものが落ちたり倒れたりする音。ものごとが急に悪いほうへ傾くさま。(音・さま)
53	ごっとな	かたくて重いものが規則的にぶつかったり、落ちたりしてたてる、重くにぶい音。(音)
54	ぴいぽっぽ	辞書にはない。
55	ごうごう	① 重く鳴りひびく低い音。(音) ② 大きないびきの音。ぐーぐー (音)
56	もこもこ	① やわらかくふくらんで厚みがあるさま。(さま)

		② 次から次に生じるさま。小さくやわらかくうごめくさま。(さま)
57	ぴょんぴょん	繰り返し身軽に飛び上がったたり、飛び越えたりするさま。(さま)
58	チップロン	辞書にはない。
59	ぽんぽん	① 続けざまに打ったり破裂する高い音。 また、軽くたたくさま。(音・さま) ② 次から次に出てくるさま。矢継ぎ早に、あるいは無造作に行われるさま。(さま) ③ 身軽に跳ね回ったり飛び回ったりするさま。(さま) ④ 破れそうになるほどふくれているさま。腹がいっぱいでふくれているさま。(さま) ⑤ 腹をいう幼児語。(名)
60	ぱっぱ	① ものが散ったり、あたりに広がったりするさま。(さま) ② 金などを次々に借しげもなく使うさま。(さま) ③ ものごとのやり方や歩き方や話し方が活発であるさま。(さま) ④ 火などが燃えさかるさま。光が点滅するさま。また、タバコを吸うさま。すばすば。(さま)
61	しゅっしゅ	① 穴やすきまから、蒸気や液体などが、勢いよく断続的にふき出る音。また、そのさま。(音・さま) ② 布など、やわらかいものがこすれる音。また、そのさま。(音・さま) ③ 風をきって走ったり、勢いよく動作をするさま。(さま)
62	かっかつ	① 靴音やウマのひづめなどの軽快に鳴りひびく音。(音) ② 光り輝くさま。非常に明るいさま。火が盛んにおこりたつさま。(さま)

		<p>③ しだいに上気するさま。逆上するさま。(さま)「感情」</p> <p>④ 勢いの盛んなさま。また、景気のよいさま。(さま)</p> <p>⑤ 息を荒くつくさま。(さま)</p>
63	くるくる	<p>① 素早く軽くまきつけるようす。(さま)</p> <p>② 回転や巻き方を何度も繰り返すようす。(さま)</p>
64	どっさりこ	辞書にはない。
65	しゃっしゃ	<p>① すばやくこすったり、削ったりするときに発する軽くかわいた音。また、そのさま。(音、さま)</p> <p>② 要領よく、すばやく動作をするさま。(さま)</p>
66	こつつんこ	① かたいもの同士が両方から軽くぶつかる音。また、そのさま。(音・さま)
67	ちょんちょん	<p>① 拍子木を続けて短く打つ音。また、歌舞伎で、幕切れに打つ拍子木のこと。幕切れ。(音・名)</p> <p>② 刀などで互いに斬り合うときの、金属がぶつかるかん高い音。また、そのさま。(音・さま)</p> <p>③ 手をたたく音。また、そのさま。(音・さま)</p> <p>④ 軽いものや小さいものが、続けざまに規則的に動くさま。(さま)</p> <p>⑤ 刃物などで軽くものを切るさま。(さま)</p> <p>⑥ スズメのさえずる声。人が小うるさくしゃべるさま。(声・さま) (古)</p>
68	チョッキンナ	辞書にはない。
69	きゅきゅ	辞書にはない。
70	ころころ	<p>① 丸いものや小さいもの、円筒形や車輪状のものなどが転がっていくときの軽く高い音。また、そのさま。(音・さま)</p> <p>② 鈴の鳴るような高くすんだ音。高い声で、明るく笑いこ</p>

		<p>ろげるさま。また、そのように快活なさま。(音・声・さま)</p> <p>③ カエルやコオロギの鳴く声。(声)</p> <p>④ 水が軽やかにわき出したり、流れる音 (音)</p> <p>⑤ 丸いさま。ほほえましく思えるほど、丸々と太っているさま。(さま)</p> <p>⑥ あちこちに点在するさま。(さま)</p> <p>⑦ あっけなく状況や態度が変化するさま。(さま)</p> <p>⑧ 心中大い喜ぶさま。(さま・方言)</p>
--	--	--

次に、意味に基づき、どの五感に当てはまるかを筆者の感覚で区分する。

視覚に当てはまる擬音語・擬態語：(さま) もにやもにや、ぐるっ、てくてく、ばしゃばしゃ、そうっと、たんたん、ぽつぽつ、ぴよんぴよん、よちよち、コロコロ、ドンドンドン、があがあ、すいすい、ぴちぴち、チャチャチャ、シャランラン、ぱっくん、わっはは。トントントン、ジャブジャブジャブ、ペラペラ、ポンポン、ニャンニャン、ワンワン、ごろごろ、ぽっくりこ、ざんぶりこ、ちゃぷちゃぷ、トントン、ギュッギュ、ちんちん、ドーン、トン、がったん、もこもこ、ぴよんぴよん、ぽんぽん、ぱっぱ、しゅっしゅ、かっかっ、くるくる、しゃっしゃ、こつつんこ、ちょんちょん、ころころ、ぎゅっ、ころりん、もぐもぐ

聴覚に当てはまる擬音語・擬態語：(声・音) もにやもにや、ばしゃばしゃ、たんたん、ぽつぽつ、リンリンリン、コロコロ、ドンドンドン、があがあ、ぴちぴち、チャチャチャ、シャランラン、わっはは、トントントン、ジャブジャブジャブ、ペラペラ、ポンポン、チュチュチュ、ニャンニャン、ワンワン、ごろごろ、パッカパッカ、ざんぶりこ、ちゃぷちゃぷ、トントン、ギュッギュ、ちんちん、ドーン、トン、がったん、ごっごん、ごうごう、ぽんぽん、しゅっしゅ、かっかっ、しゃっしゃ、こつつんこ、ちょんちょん、ころころ、ころりん

触覚に当てはまる擬音語・擬態語：(寒い・暑い・痛い・体の感じ方・ざらざらしている) リンリンリン、ぴちぴち、ジャブジャブジャブ、ペラペラ、ギュッギュ、ドーン、トン、もこもこ、しゅっしゅ、しゃっしゃ、こつつんこ、ちょんちょん、ぎゅっ、もぐもぐ

味覚に当てはまる擬音語・擬態語：(しょっぱい・ピリピリ・ひりひり) 当てはまるものはない

嗅覚に当てはまる擬音語・擬態語：(におい・ぷんぷん・香り) 当てはまるものはない

上記の辞書の意味から擬音語・擬態語の五感へ区分した結果をみると、121の童謡の中から242個のオノマトペが取れたが、その中のいずれも、味覚と嗅覚に当てはまるものがないことが明らかになった。

4. 結論

これらの結果をみて、童謡及び童話に使われる多くの擬音語・擬態語は**視覚と聴覚**だったため、幼児には特に見ると聞くの擬音語・擬態語で、童謡及び童話を表している。これは、幼児にとって見て考える力と聞いて想像する力を生み出してくれるのではなからうか。とても興味深い結果が出たのである。

参考文献

1. 金田一春彦編（2002）『学研 現代新国語辞典 改訂第三版』学習研究社
 2. 田宇（1998）「現在、オノマトペの一般的に二つの種類がある」東京堂出版
 3. 森田雅子(1953)「語音結合の型より見た擬音語・擬容語—その歴史的推移について—」東京大学国語国文学会至文学会
 4. 金田一(1978)「擬音語・擬態語概説」角川書店
 5. 小野正弘：“擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典”，小学館,2007
WEB サイト
1. <https://kotobank.jp/word/>